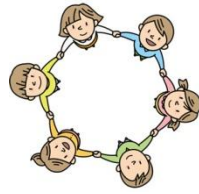


心の輪22R



『律子と敏子』という資料を通して、 「友情」について考えを深めました！



文部科学省資料
『私たちの道徳』P.61 より引用

『友達』という短い距離間に自分はいたから、近過ぎてそれを見ることができず、気付くことができなかった。『友達』という関係だけではなく、一歩離れて、第三者の視点で見ることにも必要だと思った。

敏子は、自分のことに精一杯で、律子のことを心配してあげられなかったが、律子は敏子のことをいつも気に掛けていた。私も友達を互いに気に掛けて、どんな時でも寄り添ってあげたいと思った。

友達という関係でいると、親切な態度をとっていても気付いてもらえなかったり、気付かなかつたりすることが多い。きっと、友達は「自分に対して親切な態度をとってくれる人」というような考え方になっているからだと思う。「友達だから当たり前」というような考えは良くないと思った。私は、友達のしてくれた行動に「ありがとう」を言い忘れないようにする。

小学校の頃は、友達をどうやって作っていたのかも分からないし、正直、相手の気持ちを考えたことは少ないと思った。でも、中学生になり、相手の気持ちに敏感になって考えられるようになったと思う。それでも、関係が深くなると、何も考えずに言葉を発したり、行動したりすることがあるから、相手の気持ちを考えたいと思った。

この友達がずっと自分の近くにいてくれると思ったりせず、当たり前にしてきたこと、ちょっとしたことでも、日々「ありがとう」を言えるようにして、友達を大切にしていきたいと改めて思いました。

私は、友達だからこそ気付けない、当たり前ではない優しさや気遣いがあると分かりました。もっと友達と話したりして、小さなことでも「ありがとう」と言えるように心掛け、大切な友達への感謝などを常に持っていたいです。

いつでも自分のことを心配してくれて、それに気付いてあげられるというのが友達なのかなと思った。友達じゃなかったら、基本的に相手には無関心だから、心配してもらえるとこのを日々感謝して、自分も友達にそうやって言えるようにしていきたい。

私は、敏子が律子の気持ちに気付かなかったのは、「葉書が来るのは自分が部活でダラダラしているせいだ」と深く考えずに勝手に決め付けていたからではないかなと思います。もっと律子がどう思っているのかを考えていたら、後悔せずに済んだと思います。

私はこの時間を通して、『友達』は大切だと思いました。敏子は律子のことを少し不思議に思い、避けていた時もあったけど、結局は、お互いのことを考え、心配し合っていたのだと思います。「共感してくれなかったら友達ではない」という考え方ではなく、「お互いの立場に立って考える」ことが大事だと思いました。